

# 高山飛騨なみ町

5号



## 季節の便り

桃の節句・端午の節句・七夕といった季節の行事を旧暦に合わせて、今の暦より1ヶ月後に行う風習を守っている地域があります。飛騨もその一つです。

今年の夏、上二之町町並保存会会員の平田邦彦さんのお宅の蔵から、42年ぶりに出された七夕飾りが話題になりました。

当時、高山の街ではこのような飾りをする風習があったそうです。

たぶん昭和10年頃に、祖父が作ったものと思われ、作ポール紙で大きさを覚えて作



皆様からの「地域や町並み」に関する身近なニュースや、ご意見、ご要望など、各保存会 会長様 までお寄せください

られた鳥居・石灯笼や提灯が、遠近感が出るように並べられています。提灯には「七夕・ほしまつり・天の川」と書いてあります。石灯笼には一つ一つ、筆で石の積み重ねの模様が描かれ、裏側からロウソクを灯すようになっていきます。



8月6・7日の夜7〜9時にロウソクを点灯しました。風が吹くと消えてしまうし、本数が多いので、たった2日間で200本のロウソクを使いました。思った以上に見守りが大変な七夕飾りでした(笑) 高山の町並みと一緒に、このような伝統行事も守ってきたいです。(平田氏談)

地域の新聞などで知った大勢の人たちが訪れ、お年寄り達は懐かしんでいらっしやいました。

お寄せいただきましたご意見などは、編集して本誌等でご紹介させていただきます

また、先ごろ完了した下二之町大新町伝統的建造物群保存地区の無電柱化工事。こうした無電柱化によるメリットは、大いに期待が寄せられます。

災害時の倒壊被害の回避・ライフライン復旧の迅速化、電柱を使用した空き巣被害の防止、道幅が広がることによる交通弱者の保護など、さまざまありますが、見上げた夜空に開く大輪の花。それを妨げる物が少なくなるのは、理屈抜きで心が躍ります。

## 総会のご報告

去る7月3日、平成26年度高山市景観町並保存連合会の総会が開催されました。

- 時間 午後5〜6時
- 場所 洲さき
- 議案1号 平成25年度事業報告及び決算の承認について  
↓ 異議なく承認
- 議案2号 高山市景観町並保存連合会規約の改正について  
・ 前役員に加え、副会長に日下部 勝氏  
専務理事に各専門部会長3名
- 議案4号 平成26年度事業計画(案)及び予算(案)について  
↓ 異議なく承認
- 26年度視察研修について (H26年11月6・7日)  
↓ 神奈川県横浜市、静岡焼津市方面で実施
- 来賓祝辞
  - ・ 高山市長
  - ・ 高山市議会議長
  - ・ 飛騨高山観光コンベンション協会事務局長



下二之町から見た飛騨高山花火大会 (7/30)



平瀬酒造店は、城山のふもと「えび坂」にあります。390年以上15代続き、現在に至っています。平瀬家では、代々「平瀬市兵衛」を襲名し、他の商売には、いかなることもあっても振り向かない。酒造り一筋に生きるを家訓とし、かたく守り継がれています。大正4年頃、灘（兵庫県）では「清酒」という新しい酒ができて大変好評との話を聞き、丹波より杜氏を招いて、飛騨で初めて清酒を造り、その酒を灘流正宗と名付け好評を得ました。



●平瀬酒造店



●飛騨高山まちの博物館

この博物館は、江戸時代の豪商 矢嶋家と永田家の「土蔵」を利用したものです。高山祭りの展示室は、彫刻「漆塗り」・金具などの屋台飾りの素晴らしさと、屋台を造り守ってきた人々について紹介しています。

「一位一刀彫」は、イチイの木が持つ色合いを活かしたもので、海外のコレクターにも高く評価されています。

「飛騨春慶」は、木目の美しさを際立たせるために「摺り漆」という技法を使っています。

飛騨のやきものは、「渋草焼」・小糸焼・山田焼がよく知られています。

金森氏が飛騨を治めていた時代から山林資源が豊かで、材木として切り出して諸国に販売して多くの利益をあげました。

江戸時代の中頃から「造り酒屋」が増え、明治時代の初めには「生糸」・真綿・紬などが生産されました。

高山の町を歩いてみると、ところどころに白い壁の大きな土蔵を見かけます。屋台を格納する屋台蔵です。その「観音開き」の扉は圧巻です。構築・維持する技術は大変なものです。

屋台蔵が造られた時期ははっきりしませんが、約200年前に創建された「龍神台」の蔵（上三之町）が最古であるとされています。

この屋台蔵は三番叟台という屋台の蔵です。三番叟台はカラクリを行なう屋台で、約260年前に造られたと伝えられています。巡行において、常に「神楽台」の次に曳かれる特権があります。



●三番叟屋台蔵

上二之町



●平田記念館

平田家は、屋号を「打保屋」といいます。明治6年から「ろうそく」や「鬢付け油」を商っていた豪商でした。ろうそくが飛騨で製造され町中に広まったのは「18世紀」になってからです。

鬢付け油は、晒木蠟・菜種油・香料を原料とする日本髪を整える油です。今でも「力士」がマゲを結う時に使います。

現在は平田記念館として公開され「13代」に及ぶ商家の歴史資料や、当時の女性が使った化粧道具・生活用品・子供のおもちゃ・美術品などが3棟の土蔵に展示してあります。

建物は、高山でも指折りの豪商は、幕府権力に遠慮して、軒を深く、「屋根を低く」せました。

高山市政記念館は、昭和28年に建てられた建物です。「旧高山町役場」として建てられ、昭和43年まで高山市役所として使われてきました。日本風と西洋風の特徴を合わせた「和洋折衷様式」の建物です。

この建物を建てた大工さんは「阪下甚吉」という有名な人です。良質のヒノキが選ばれ、土台や柱は100年以上経った現在も安定していることから、すばらしい大工さんであったことが分かります。実は、飛騨地方で初めて窓に「ガラス」が使われた建物です。

現在は高山市政記念館として無料で開館しており、毎日たくさんのお客が訪れます。

●高山市政記念館



●古い町並

Q、町家の色が濃い茶色なのはなぜ？

A、木に塗られた薬の色。柿渋にベンガラとススを混ぜたもの。防腐・防虫・防火効果があり、耐久性も強く、雪が多いこの地方で好んで使われた。

●古い町並み



みなさん 町を歩きながら考えて下さい

Q、三町の道路の幅は、どうやって決められたの？

A、荷車がすれ違える幅。

Q、道路の両側にある水路は何のため？

A、消火用の水を確保するため。水路の真上にのびた屋根から落ちる雨水や雪解け水を流すため。

上三之町

「子ども達に景観町並保存の大切さを知ってもらおう」と、関わりがある各所をスタンプをもらいながら観て巡る催し物（主催/子ども伝承部会・後援/高山市）。今年で2回目です。

7月19日、無事終えることができました。参加者は昨年の13名から、今年は37名と大幅に増え、ありがたかったです。

当日はあいにくの天気。激しい雷雨に見舞われましたが、子供達はグループごとに、楽しそうにまわってくれました。昨年、部会が発足した時、「子供たちに高山の素晴らしさを伝えていくことが我々の目的である」と考え、当初の名称を変更し「子ども伝承部会」としたことを思い出します。毎年「ご朱印めぐり」という形で、子供たちに高山の魅力を伝え、併せて自分たちも学んでいくというスタンスで今後も活動をしていきたいと思えます。

子ども伝承部会副部長 長澤直彦（上一之町大町景観保存会所属）

「上町発見ご朱印めぐり」を終えて

①良かったこと・楽しかったこと  
▼転校してきたので、知らなかった高山のことを詳しく知ることができた。高知のおじいちゃんとおばあちゃんに教えてあげたい▼2回目の参加です。1回目とは違う場所に行けて良かった▼初めて行ったところ、初めて知ったこと、高山には色々な歴史がある。大切にしたいと思った。

②印象に残った場所  
▼平田記念館/昔の造りなので段が高い急な階段だった▼屋台蔵/実際に入れたこと▼市政記念館/昔の古いガラスがテコポコしていた不思議だった▼新名鍛冶屋/燃える炭に酸素を送って、もっと高温にする仕組み▼平瀬酒造店/歴史を詳しく知ることができた

③全体的な感想  
▼雨が降っていなかったら良かったのに▼寒かったので、ソフトクリームより団子の方が良かった▼これからは、高山にしかない伝統・歴史など、高山の良さを大切にしていきたい。

④次回への要望  
▼各グループに1人、解説してくれる先生がついてくれると良い▼ポイントを集めてアイスクリームがもらえるというルールだと楽しそう▼冊子がクイズ形式になっていると盛り上がりそう▼探し物をする指令があるようなゲームみたいだと面白そう▼まる一日かけて、もっと沢山・詳しく高山のことを知りたい。

▶子ども達の声



●新名鍛冶屋

ここは「新名鍛冶屋」さんです。鉄を使って生活に必要な物を作っています。「くわ」や「がま」などの農具が始めました。

鉄の棒や板を真っ赤になるまで熱すると、曲げたり伸ばしたり加工することができま。熱するために「炭」を燃やし、さらに「酸素」を送り込んで高温にします。

現在は、民芸品や祭屋台の金具を作っています。

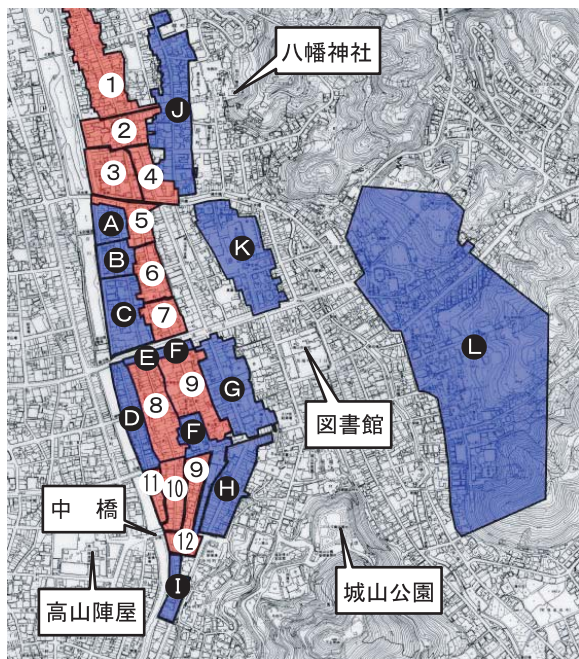
祭屋台の「釘」や「車輪の金具」などは目立たない部品ですが、無くてはならない大切な物です。

ココに注目！！  
※子どもたちは各ポイント 解説文中の「 」の中を 解説者の言葉を聞き取って穴埋めをしました



# 高山市の伝建地区・景観保存地区の保存会 Vol.5

高山市景観町並保存連合会は、高山市市街地景観保存区域の12の景観保存会と、高山市伝統的建造物群保存地区の12の町並保存会で組織されています。ここでは各号、保存会をご紹介します。



かたはらまち  
保存会名：片原町町並保存会（地図⑤と地図⑪）  
保存会長：長瀬 湊吉（ながせ そうきち）さん  
会員軒数：62軒（景観保存区域に9軒

・町並保存区域に46軒）

該当町内：片原町全地域（筏橋から中橋は伝建地区）

主な目印：秋葉様・崑崗台の屋台蔵・宮川沿いの桜  
・昔話にもある「味噌買い橋（筏橋）」

主な行事：秋葉様周辺の掃除（4～11月に月1回）と祭礼  
・花いっぱい運動・自衛消防防災訓練・資源リサイクル・屋台の虫干し

会の実績：「安川交番」新築にあたり、当保存会の意見も取り入れていただき、ふさわしい建物が出来上がりました。

ひとこと：例祭では、屋台の管理・運営は屋台委員を中心に行い、お囃子は生演奏を伝承するために練習を重ねています。春には「山行き行楽」を、班長を中心に老若男女全員参加で行ないます。住民の輪を大切にしております。

きゅうほうしゃぐみ  
保存会名：鳩峯車組町並保存会（地図⑦）  
保存会長：倉田 弘（くらた ひろし）さん  
会員軒数：21軒

該当町内：下二之町第一班

主な目印：明治時代の代表的な建物：柿下家・旧村田家

主な行事：(H25年度実績)6月菖蒲を屋根に上げる・7月各家に風鈴を取り付ける・8月七夕飾り・消火訓練

会の実績：前項に同じ

ひとこと：古い町並みに、昔ながらの風情のある風景を感じて欲しいです。



じんまたいぐみ  
保存会名：神馬台組町並保存会（地図⑥）

保存会長：川上 浩平（かわかみ こうへい）さん

会員軒数：18軒

該当町内：下二之町第二班

主な目印：神馬台屋台蔵

主な行事：秋の高山祭屋台の曳行・七夕（8/7）笹飾り  
夏の朝顔栽培

会の実績：組内全戸のグループ火災報知設備の設置・消火訓練

ひとこと：下二之町第二班は「ぶり街道」の通りにあり「店」と「住宅」の混合する地域です。明治・大正・昭和の町並みの維持に努めています。

